



第547号

学校だより

10月号

横浜市立東本郷小学校

令和4年9月30日

人にやさしくありがとうの心で がんばるがんばる最後まで 本気で取り組むひがほんの子

「決める」主体を子どもたちに

学校長 どうごし やすひろ
堂腰 康博

校庭や体育館、教室やホール等、学校のあちこちから「ヒガホンスポーツ DAY（運動会）」で披露する団体演技の楽曲や「フレー、フレー、ヒガホン！」の声援が聞こえてきます。演技中に発する掛け声も日に日に力強くなってきていて、子どもたちの気持ちがヒガホンスポーツ DAY に向け、高まってきていることが伝わってきます。

本校では、可能な限り、体育的行事や文化的行事、遠足・集団宿泊行事を実施できるようにしています。子どもたちにとって楽しく、充実した学校生活にするためには、こうした学校行事の果たす役割は大きく、教育的な価値も高いと考えているからです。With コロナの状況が続く中、どのようにしたらできるかといった「方法論」はもちろん大事です。しかし、最も大切なのは、それを行う「目的」です。「子どもたちが毎年一生懸命取り組んで、満足感につながっているのだからこれまで通りでいい」ではなく、何のためのヒガホンスポーツ DAY なのか、あらためてそこから考えることが、その先にある達成感、感動の共有につながると思うのです。

そこで、教育方針として掲げる「自ら問いを見出し、解決のために主体的に学び、やり遂げる姿」や「互いの考えや意見を認め合いながら学校生活上の問題を解決していく姿」を求め、本当の意味で子どもたち主体の行事にするためにどうすればいいのか、目指す子どもの姿につながる「学びの場」にするには何を整えればいいのか、教職員でじっくりと話し合うことにしました。その結果、子どもが「自分たちで決め、実行できる」内容を盛り込んだヒガホンスポーツ DAY にしようという方向性が共有されました。

何年かぶりに6年生による実行委員会が立ち上がりました。40名以上の子どもが立候補し、役割を分担して計画を練り上げています。他の学年では、個人種目のエントリーを選択したり、障がい物走の種目を創ったり、自分で考えた振り付けを自由に踊る場面を創ったりと、主体的な学びが始まっています。応援団も立ち上がりました。紅組・白組はないので、団長は一人です。各競技には得点がかからない中、応援団はどのようにしてエールを届け、みんなを盛り上げていくのでしょうか。どんな最適解を見つけていくのでしょうか。力を合わせて大きな目標に向かっていく時、周りとの意見が合わず苦勞することもあるでしょう。それでも普段では得られない感動が味わえ、学級や学年集団を育て、よりよい校風を築いていく絶好の機会になると信じています。そして、子どもたちが、自信を高め、わたしたちの想像を超える成長を遂げていくのだらうと、今から期待を膨らませています。

10月15日（土）、入れ替え制（3部）による半日の開催になりますが、子どもたちの輝く姿をどうぞ楽しみにしててください。そして、東本郷小学校の教職員が、子どもたちをどう育てようとしているのか、その姿勢や心もちも感じていただければ幸いです。